



INDEX

- 1) 今月の1枚: 「モロゴロのバニラ、販売開始！」
- 2) JICA in Tanzania : 「地方自治体の開発事業レビュー」
- 3) クリコニ? : 10月のできごと
- 4) JichoのJicho : 「 Road to Nairobi」

**(1) 今月の一枚:  
『モロゴロのバニラ、販売開始!』**



モロゴロ県では協力隊員が3代に渡りバニラ栽培の普及に携わってきています。5年前に村に導入されたバニラが、今年ようやく初めての本格的な収穫を得、6月から農民グループと共に香りを生成するのに必要な加工処理に取り組んできました。そしてやっと加工工程が終わり、バニラを商品として販売する段階になりました。未だ生産量が少ないため当面は国内で小売展開の予定です。

同じく協力隊の伊藤さん(20年度3次隊/デザイン)の協力で作ったラベルのおかげで、お土産品として購入してもらえるパッケージも準備できました(写真)。数年間にわたり利益なしでバニラに取り組んできた農民の期待を裏切らないために、継続的なビジネスの地地作りをし、将来につながる道筋を見出したいと思っています。

(モロゴロ 松木寛子隊員)

ダルエスサラームではティンガティンガ村のLutoni Shopで販売中です。(Vanilla Tea50g, Vanilla Beans20g, Vanilla Powder30g)

**(2) JICA in Tanzania:  
「地方自治体の開発事業レビュー」  
(古川美晴企画調査員)**

各地方自治体の開発事業の資金源となっている中央政府からの自由用途交付金は、日本のODAでも資金援助しています。  
この交付金を使って建設され、地域住民に有効利用されている井戸、クリニック、道路、校舎を視察した様子をお伝えしたいと思います。

タンザニアでは、県レベル以下の地方自治体<sup>1</sup>に開発事業用の様々な交付金<sup>2</sup>が中央政府より給付されています。これら交付金を利用して実施された開発事業が適切であるかどうかをモニターする目的で、タンザニアでは年に二回、ある州を対象として、地方自治体の開発事業レビューを実施しています。農業省、保健省、地方自治庁など地方の開発事業に関連する中央省庁の代表者や、県レベル地方自治体の行政長や行政官、地方行政分野を支援するJICAを含むドナーなど、毎回総勢6,70人が参加するレビューは、今回で11回目。ウガンダ、ルワンダ、ブルンジに接する、タンザニア最北西のカゲラ州を対象に10月22日から24日まで実施されました。



ビクトリア湖にそびえる丘陵に囲まれた美しい町ブコバ

レビューでは、全8県レベル自治体<sup>3</sup>における開発事業を各グループに分かれて訪問しました。私の参加したブコバ県グループは、地方自治庁の局長、国家環境運営委員会代表、フィンランド代表、

<sup>1</sup> タンザニアにおける地方自治体の行政組織については、パモジャ2008年9月号参照。

<sup>2</sup> 地方自治体が自由に用途を決定できる、自由裁量の開発交付金(Council Development Grant-CDG)の他、農業普及用、地方給水用、保健や教育施設用の交付金が主に挙げられます。

<sup>3</sup> ブコバ市、ブコバ県、ビハラムロ県、チャト県、カラグエ県、ムレバ県、ンガラ県。



世界銀行代表、ビハラム口県行政長、チャト県計画局長から構成され、まずは県の役所を訪問。その建物は、1958年



にその地を統治していた王族の会議場として使われていたものです(写真)。

レビューの第一プロセスは、県運営チームとレビューグループによる

会議で始まりました。ここでは、事前に配布された県開発事業報告書に基き、予算執行、会計監査報告への対応、開発事業の実施状況、県職員の行政能力改善状況、自治体の歳入状況、行政関連システムの利用状況、環境やジェンダーなどの既定項目について話し合いました。

開発事業に対する県民の労力や資機材による貢献を県としてどのように捉えているのか(予算や支出へ反映させているのか)、以前撤廃された地方税への代価と考えているのか、今後どのように県民の貢献を増幅させられるかが、県との論点となりました。地方分権化を進めるタンザニアでは、県民への説明責任(アカウントビリティ)を県以下の地方自治体が強めることで、地方自治体と県民間の信頼関係を深め、結果として県民の開発事業への自主的な参画を促し、地方における自立発展性を増長させることを目標としています。従って、開発事業への県民の貢献は、その事業への県民のオーナーシップと持続的維持管理に繋がる、大きな意義があるのです。日本は今年10月に技術協力「地方自治強化のための参加型計画策定とコミュニティ開発強化プロジェクト」を開始したばかりで、県民の開発事業への自発的関与とも深い関連があるため、今後の他州におけるレビューでも、この議論を追っていく必要があると感じました。

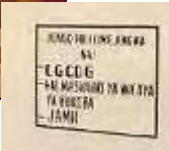
その後、県内の6つの郡で実施中又は実施済みの開発事業8件の視察に行きました。ブコバ県は過去3年間で350を超える開発事業を実施してきたので、今回訪問した事業はそのうちのほんの一握りです。しかし、それぞれの郡の要請を受けて実施した事業が住民に有効利用されているのを見ることができ、日本のODA支援が役にっているのが確認できました。



Kaibanja 郡の穀物倉庫



Kaibanja 郡のクリニックをグループに説明する、県議会議長 (右下:自由用途交付金、ブコバ県と県民の支援で建設された旨、クリニック外壁に明記)



Ruhunga 郡深井戸(子供でもポンプ可能)



Katoro 郡の Katoro 高校



さて3日間のレビューの最終日には総会を開き、全8県レベル自治体グループからの発表と今後のカゲラ州の開発事業の改善に向けた提言を話し合いました。訪問した開発事業の質は全体的に合格点であるにもかかわらず、行政一般の課題は多岐に渡り、開発資金の遅滞による事業実施の遅延、職員の行政能力強化の更なる必要性から、現在では地方自治体に一任されている県における資機材調達プロセスの遅延や物資コストの変動による予算確保の困難さ、慢性的な開発予算不足が挙げられました。今後は、州と県以下の地方自治体が協力して、これら課題の改善・解決に向けて模索していくこととなります。

総評として、地方自治体自身のみならず、今回参加した中央省庁やドナーの代表にとっても、地方の開発事業の意義や、地方行政に係る課題を発見し、それぞれに学ぶ機会を与えられた有意義なレビューだったと思います。

(以上)



百名を超える参加者の議論



**(3)く・り・こ・に? 10月のできごと**

ここでは、10月のJICAの活動を紹介します。Kulikoni? とはスワヒリ語で「何があったの?」の意味です。Karibuni! (ようこそ!)

**新プロジェクト開始!**

**地方自治強化のための参加型計画策定と  
コミュニティ開発強化プロジェクト**

“地方”がもっと力をつけなければ、タンザニアの地方分権化は成功しない…ではどうすればいいか? いよいよ今月から開始したこのプロジェクトは、2001年頃から徐々にタンザニアの各地で導入されるようになった、通称「O&OD (Opportunity and Obstacles to Development)」という参加型開発のための手法を改善することによって、住民の声と地方政府による支援との理想的な関係をつくることを目的としています。プロジェクトでは、参加型開発計画に欠かせない効果的なファシリテーターの地域社会を見る力を養い育成する支援をしていきます。

(ガバナンス担当: 山本(み)所員)

[写真: 地方自治庁会議室でのプロジェクト・チームメンバー]



**内部監査能力強化プロジェクト**



「内部監査」って一体何でしょう?

それは、組織の色々な活動や業務が合法的・合理的に行われているかどうかを検証して、是正するべき点があれば指摘することを、外部機関ではなく「自分たちで」行うものです。これによって、業務の効率化や、不正の未然防止・事後の速やかな発見につながります。

今月から開始したこのプロジェクトでは、JICA 専門家が、財務・経済省内に設置されている「中央内部監査ユニット」のスタッフと一緒に、内部監査ハンドブックを作成したり、同スタッフや各省庁で活動している内部監査人を育成したり、人々の内部監査に対する理解や意識を向上させたりすることで、タンザニアの中央諸官庁で内部監査が適切に実施されるようになることを目指しています。(山本(哲)所員)

[写真: Kick-Off Meeting での、カウンターパートの中央内部監査室スタッフとプロジェクト専門家、JICA 事務所スタッフ]





**【青年海外協力隊】 10月21-28日：視察の旅**

隊員のご家族とご親戚である13名の方々がタンザニアを訪問されました。参加者は、それぞれの隊員の任地まで訪問され、生活・活動の環境を体験されました。またンゴロンゴロ国立公園やザンジバルまで足を延ばされる等、短いながらも充実した8日間のご滞在となりました。中には、キクウェテ大統領に出会われて一緒に写真を撮られた幸運なグループもあったようです。

隊員のみなさんが元気で現地に根付いて活動されているのを確認され、安心されたご様子だったのが印象に残りました。(写真:大使公邸にて中川日本国大使と (協力隊調整員 高島))

**【州保健行政システム強化プロジェクト (TC-RRHM)】**

**10月20日-12月3日：サポーター・スーパービジョンとコーチング研修開始**

全国の州と県の保健局を対象とした本研修(3日間)を10カ所で開催しています。今回の目玉はなんといっても、全132県の県医務官がプロジェクトのターゲットグループである州保健局メンバーと一緒に研修に参加することです！知識の習得に加えて、両者間のコミュニケーションと相互信頼を深めることを狙っています。対象300名が全て研修に参加して、プロジェクトのキャッチフレーズである「Be Connected」を実現させるまで、チームの旅は続きます。(写真:ムソマにて。ロープを使ったゲームでコミュニケーションを学ぶ) (専門家 杉原まゆみ)



**(4) Jicho の Jicho: 渡辺次長  
「Road to Nairobi」**

今回は、時事通信ワシントン支局の記者の取材に同行し、日本の円借款により建設中のアルーシャーナマンガ間の幹線道路を経て、陸路でナイロビまで出張しました。

アルーシャーナマンガーアティリバー(ナイロビ郊外)道路は、ケニアとタンザニアを南北につなぐ重要な経済ルートであり、クロスボーダーのインフラということでEAC(東アフリカ共同体)も事業の監理にあたっています。この案件は、2007年に承認され、タンザニア側のアルーシャーナマンガ間104kmは円借款で(68億円)、ケニア側のナマンガーアティリバー間の135kmはアフリカ開発銀行が受け持つことになりました。タンザニア側の工事の進捗は9月初めの段階で約10%という状況です。



改修前の道路の状況

初日は、本事業に関し、両国の調整を行っているEACのインフラ局のワング局長を訪問。同局長は「EACの推進する共同市場の形成のためには、資本・労

力・物資/サービスがスムーズに移動できることが重要。例えば、ケニアはタンザニアに工業製品を輸出、タンザニアはケニアに対して農産物や原材料を輸出するなど、EAC加盟国がそれぞれの強みで補完し合うことが重要」と力強く話していました。



道路の改修工事が進捗中

翌日、アルーシャから建設中の道路を北上し、ケニアとの国境の町ナマンガをめざして出発。改修前の道路は幅も狭く、路面も荒れています。その上、過積載のトレーラーの通行や維持管理不足で状況はますます悪くなっており、改修工事の必要性は極めて高い状況です。

道路工事でどうしても避けられないのが迂回路の通行です。現在、未舗装の迂回路が40キロ近くに及んでおり、利用者や周辺住民にとっては我慢の状態がしばらく続きます。

利用者へのインタビューでは、1968年から東アフリカ全域での運送業を行なっている人から話を聞きました。



「道路が悪ければ、時間コストだけでなく燃料代、車の修理費などが全て輸送コストに跳ね返る。輸送コストが下がれば商品の値段も下がって運送業者にも消費者にもメリットがある」と、道路の完成に大きな期待を寄せていました。

アルーシャから、荒涼とした半乾燥地帯を4時間かけて国境の町ナマンガに到着。国境越えは2段階です。まずタンザニア側のイミグレーションで出国手続きをし、100メートルくらいの緩衝地帯を移動して、今度はケニア側のイミグレでビザの取得と入国手続き。合計の所要時間は40分くらいで、思ったよりもスムーズでした。一方、物資を運ぶトラックは通関手続きや重量チェックのため列をなしており、現在の国境チェックは物流の大きな障害となっていることがうかがえました。この2段階の出入国プロセスを一回で行う One Stop Border Post への JICA の協力も現在進捗中です。

ナマンガからはアフリカ開発銀行がファイナンスしている工事の状況を見ながらナイロビまで約165km。今回、初めて陸路でナイロビに行ってみて、当たり前のことですが隣の国とは地続きなんだと実感しました。アルーシャからだとなイロビはダルエスよりかはるかに近く、物流の上でも戦略的にもこの幹線道路の重要性は言うまでもありません。



ナマンガの国境(手前と向こう側の間が緩衝地帯)

このように多くの人に裨益する道路案件ですが、工事中の一時的な不便さや、完工した後の問題などは誰の目からもわかりやすく容易に新聞ダ

ネになってしまうこともあり、それが道路案件のつらいところかと思います。しかしながら首都ドドマから首都ナイロビへと続く唯一の国際幹線道路の輸送能力の改善を図ることができれば、EAC 域内の経済統合の推進と貿易の促進を図ることができ、また地域の人たちの生計向上に役立つものと改めて思いました。

(以上)

**「ルーエッセイ  
～Rafiki yangu 私の友だち in Tanzania～」**

**(19-4次隊 岡 美雪さん)**

**お隣に住むアフリカ。**

**彼女は私の「今日のできごと」に耳を傾け、  
タンザニア人の思考回路を教えてくださいたい大切な友達。**

**先月、彼女は結婚式を挙げた。**

**なれどめの詳細を嬉しそうに話す彼女に、  
女心は世界共通なのだと実感。**

**私と指輪交換の練習までしてのぞんだ当日、  
彼女は今までで一番美しく幸せそうでした。**

**NawataKia Kila la heri.**



**次回は、道着を着ると空手家スイッチが入って  
別人になるモシの金藤さんをお願いします。**



JICA タンザニア事務所: P.O.BOX 9450 Dar es Salaam

Tel: :255-22-2113727-30、 Fax: :255-22-2112976

<http://www.jica.go.jp/tanzania/>



パモジャ(Pamoja)編集部: 皆様からのご意見や、

Goodな情報の提供をお願いします!

[adachifumiko.tz@jica.go.jp](mailto:adachifumiko.tz@jica.go.jp)

